

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校では、学校教育目標である「自ら学ぶ 人間性豊かな たくましい児童の育成」を目指し、(ひ)「広い見方でよく考える」確かな学力の習得、(し)「しっかりとした体づくり」体力づくりの推進、(や)「やさしい心」情操豊かで自他を大切に作る心の育成、(ま)「まじめに働く」勤労の精神の育成、という4つのめざす子ども像を提示して、教育課程の編成や日課表等の工夫を積極的に行っている。

本校の子どもは、明るく素直で、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組んでいる。また、全校児童が33名と小規模であるため、子どもたちの豊かな仲間意識を育むための異学年交流活動が盛んであり、休み時間や放課後に他学年の子を誘って遊んだり、高学年が低学年に優しく声を掛けたりする光景がよく見られる。

学習面では、今までの研究成果や少人数学級の利点を活かした個に目を向けた指導の充実等により、基礎的・基本的学力を着実に付けてきている。さらに、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞き取ったりする意欲や力が増してきている。

しかし、少人数の限定的な集団の中では、論理的な言葉を介さなくても互いに理解しあえる側面もある。授業でも考えを論理的に伝えることができなくても、子どもたちの間では、何となく伝わり分かったような気になる場面や、自分の考えはしっかり持っているながらも、伝え方が分からずに途中で言葉に詰まってしまう場面が散見された。そのため、本校では自分の考えを表現する力の向上やコミュニケーション能力の育成が大きな課題となっている。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 地域の力を活かした対話的な学びをつくる学習活動の工夫

3 主題設定の理由

子どもたちは、これからの社会を生き抜くために、自立し、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力を求められている。そのため、知識の質や量の改善とともに、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されている。さらに、社会の変化に目を向けて、教育が普遍的に目指す根幹を維持しつつ、社会の変化を受け止めていく「社会に開かれた教育課程」の編成が必要となっている。そのためには、子どもや地域の実態を踏まえて、地域の人・ものを活用し、地域社会と連携していくことが重要になる。

昨年度までの研究では、子どもたちが、基礎的知識・技能を習得し、自分が直面した課題を解決するための思考・判断・表現ができるように、各教科における言語活動の充実、特に算数科に焦点をあてて、社会集団の中で他者と関わり合いながら生活していくのに必要とされる表現力やコミュニケーション能力の育成を図るための研究を進めてきた。これまでの取組の中で、自分の考えを他者に伝えることを楽しみ、論理的に伝えることのできる力が向上してきている。また、学び合いの中では、自他の考えの相違点に気付いたり、互いの考えのよさを認め合ったりすることができるようになってきている。高学年では、自力解決したことを、意見交換したり話し合ったりしてお互いの思考をつなげることで、自分の考えをより深めるものとすることもできるようになってきている。しかし、小規模校であるので、学校内での交流できる人数は限られている。

本校では、来年度、学校運営協議会を組織し、コミュニティー・スクールとして、家庭や地域との一層の連携を深めた教育活動を進めていく。そこで、地域の力をコミュニケーション能力の育成にも活かしていきたい。交流の場を地域へと広げ、学校の外の人との交流を設定することが、児童の自己表現力と人間形成能力を高めることにとって有益であると考え、地域参画型授業の実践を積極的に行っていく。子ども同士の協働活動や地域との方々との対話等の活動を通して得た手がかりにもとに考え、意見を交流し合う。その中で、子どもたちは学ぶ意義を見つけ、学習に対する達成感を持ち、より主体的に学習に向かうようになるであろう。学校内外の方々との対話を通して「対話的な学び」をつくり、主体的に学ぶ児童の育成を目指したい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、授業の構造化の定着とともに、「NRT」

「Q・U」調査を活用して学力向上とともに、互いを認め、高め合う学級集団づくりにも焦点をあててきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・地域の力を授業と学校行事に活用できる場面の開発をする。
- ・「対話的な学び」から学びを確かなもの、より深いものにするための授業展開を検討・実践する。
- ・児童の変容を明確にするため、アンケートの作成をする。
- ・講師・助言者を招聘しての学習会や先進校視察や実践、文献により学習する。
- ・授業実践による検証とまとめをする。
- ・「授業づくり部会」「行事検討部会」ブロックによる研究活動を行う。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと随時リンクしながら校内研究を進める。

(2) 研究方法

- ・「授業づくり部会」では、地域の力の活用や「対話」を通した学びをつくる授業展開を研究し、2学期に授業研究を行う。
- ・「行事検討部会」では、学校行事を地域の力を活用して行ったり、児童が学習したことを発信したりする場のできる行事の持ち方や運営の仕方を研修し、実践をする。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱の各担当者を決め、その取組との連携を図る。

5 年間研修計画

研究主任 武井 麻子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する 児童の育成」	・校内研の運営について（主題・内容） ・校内研の年間計画の決定 ・児童の実態把握(Q・U検査・NRT検査)	研究主任		4月	
	・K13法による児童の実態の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組の提案 ・ブロック別研究	研究主任 各担当 ブロック長		5月	
地域の力を活かした対 話的な学びをつくる学 習活動の工夫	・ブロック研究	ブロック長		6月	
	・授業づくり・学校行事について	ブロック長		7月	
	・教育課程研究（還流）・ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		8月	
	・ブロック研究 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	ブロック長 各担当		9月	
	・授業研究会 ・校内文化祭（実践） ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	授業者 各担当	4年	10月	○
	・ブロック研究 ・K13法による児童の実態の分析	授業者 研究主任		11月	
	・世代間交流会（実践） ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		12月	
	・ブロック研究（成果と課題）	ブロック長		1月	
	・校内研究全体の成果と課題	研究主任		2月	
	・次年度教育課程の編成 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	